連載

「働き盛りの甲状腺がん体験記　反回神経麻痺で声が出ない!」

松本博之（52歳・団体職員・広島県在住）

【新連載開始に当たって】

これから始まる新連載は、約1 年前に甲状腺がんが発覚した働き盛りの男性の闘病記です。当ホームページでは、本年（2020 年）７月に、原利彦さんの頭頸部重複がん（中咽頭がん・甲状腺がん）の、２年にわたる連載を終えたところですが、引き続き頭頸部がんの体験記を掲載いたします。原さん同様、働き盛りで子育て世代のがん罹患は、本人はもちろん、職場や家族に与える影響も多大なものがあります。声帯を動かす反回神経にダメージを受け、仕事がしにくくなった松本さんが、つらい治療を乗り越えて職場復帰し、治療前の8 割程度の仕事量をこなすまでの体験記をお届けします。

（編集責任者：波多江伸子）

＜第1 回＞
発覚 ～ 出張中に突然声が出なくなった

2019 年12 月12 日、出張のため東京へ。大事な展示会の打ち合わせやコマ割り抽選会がある日でした。そして知人との会食。
まだコロナの話など全くなく、ラグビーのワールドカップの余韻とともに東京オリンピックに向かって明るい時期でした。そして僕も明るかった。2020 年２月の展示会は、自分が手掛けてきた仕事のある意味集大成。広島空港に行くリムジンバスの中でスマホを触りながら、久々の出張を楽しみにしました。
飛行機から観る富士山はとてもきれい。キャビンアテンダントにJAL スカイタイムユズをリクエストし、これからはじまる打ち合わせについて考えていました。
そうです。まだ声は何事もなく、ふつうに会話できていました。

羽田に着き、モノレールで浜松町駅へ。このとき急に、声が出ないことに気づきました。朝、妻に「いってきます」、キャビンアテンダントにも自分の声で話せていたのになぜか急に。でもそのときは後で自分の人生が一変するような病気とは夢にも予想できず、ただ風邪でも引いたかなと思っていたのです。時間があったので、宿泊予定の新宿のホテルに先に荷物を預けました。このときも声は出ず、わずかに聞き取れる、声帯を通さない息だけの声で荷物を預けました。

チェックインが終わり、声が掠れたまま2 社の会社と会議しました。
掠れはしていますが、静かなところでは会話は成り立ちます。

翌朝、起きても声はでません。それでも会議が続きましたが、オフィスだったのでなんとか会議はこなせました。
でも、のど飴なめても、龍角散を飲んでも一向に声質は変わりません。
せめて薬だけでももらおうとスマホで検索した都内の耳鼻科医へ。
耳鼻科医は診察後、すぐに地元の耳鼻科で診察を受けることを進められました。
ネブライザーもなく、薬の処方もなく、問診と喉を診ただけです。
そして、夜は知人と居酒屋で会食。待ち合わせ場所の高田馬場エリアの居酒屋はみんな満員です。ここからわずか４ヶ月後に、新型コロナで居酒屋がみんな休業することになることも思いもしませんでした。活気に満ちた東京がそこにはありました。

（知人と会食した居酒屋で。この時は、自分にも社会にもまだ「普通の生活」があった）

近所の耳鼻科へ　～「反回神経麻痺です」

12 月14 日、午後、に広島駅に着き、妻が車で迎えにきてくれました。
そして予め調べた自宅近所の耳鼻科クリニックへ直行しました。
土曜日の午後に診察を行っている耳鼻科はそんなにたくさんありません。
医師は真剣な眼差しで経鼻カメラで声帯を診察し、そして丹念に喉を触診しました。
10 分か15 分か。どのくらい経ったのかは覚えていませんが異様に長かったことを覚えています。
そして一通り診察を終えたあと、「すぐにMRI が必要です。今から予約するので、MRI 検査を受けてください。病名は反回神経麻痺です」
「反回神経麻痺」という言葉を生まれて始めて聞きました。
そしてMRI を撮る病院の紹介状を書いてもらい、病院を後にしました。
妻に「反回神経麻痺でMRI を撮る」とだけ言って車に乗り込みました。
帰ってきて一番にパソコンで検索。
「反回神経麻痺、原因はウイルス性の風邪がほとんど。まれに甲状腺、咽喉部に悪性腫瘍がみられる。治すのは自然治癒の場合は半年以内・・・」

と書かれています。ネットの情報が少ないですが、ひょっとしたらがんかもしれない。
だけどほとんどはウイルスで一過性のものと書いていました。
このとき、病気は長期戦になるなあと思いながらもがんはないだろうと根拠もなく思っていました。

【MRI 検査】
2019 年12 月17 日。仕事は16 日から行っていましたが、「風邪でも引いたの？」というくらいのことで、東京みやげを渡しつつ仕事をこなし、18 日に早退してMRI 検査できる病院へ。
ぎっくり腰を患って以来、20 年ぶりかと思いながら 1 時間近くかけて検査しました。
そして紹介医である耳鼻科宛の検査結果が入った封筒をもらって帰宅しました。
帰宅後、見てはいけないのかもしれませんが、検査結果が入った封筒を開けました。

そこには「甲状腺に40mm の腫瘍が認められる。反回神経麻痺の原因として矛盾はない」と書かれていました。
見た瞬間は「悪性腫瘍」とは気づかず、またもパソコンで検索。
反回神経麻痺、腫瘍・・と。検索結果から見て覚悟というかなんという気持ちか、今となっては思い出せません。ただ「これはがんかもしれない」と初めて思いました。
次の日は会社を休み、紹介医である耳鼻科に行きました。妻にはついてきてもらいました。
検査結果を見せると、耳鼻科の先生は「やっぱり」という顔をしつつ、
「すぐに大きな病院にいきなさい。広島なら広島大学病院ですね。予約取ります。取れたら携帯に電話します」と告げられました。

もう何のことかわかりません。先生は腫瘍を確認すべく「触診した限り腫瘍はなさそうなんだけどな」と言いながら触診を丹念にし、終了後、僕から「もしがんならステージはどのくらいですか？」と聞くと、「反回神経麻痺しているので、ステージは初期ではない」と。

帰りの車の中で、妻に「医者から甲状腺がんだと言われた」というと、
妻は目を見開いて「そんなこと信じられない。少なくとも私が自分で医者に確認するまでは」と。
それから数日は会社を休みました。有休もかなり残っていたことと、何より自分ががんの疑いが強いのがショックで。毎日のように甲状腺がんのことをパソコンで調べました。

甲状腺がんはタイプが４つある。90%が乳頭がんというおとないいがんだと。
ほかの３つは、濾胞がん、低分化がん、未分化がん。
未分化がんは甲状腺がん全体の１%とまれだが、予後が悪く、１年後の生存率は１%と。

そして何度も何度も悔いました。なぜ甲状腺を調べなかったのだろうと。そのチャンスはあったかもしれないのに。人間ドックでも。嗄声になったので呼吸器クリニックの医師に
「耳鼻咽喉科に行ったほうがいいですかね？」と聞いたのに、返答は「喘息の吸入薬の副作用ですので必要ありません」と言われたので行かなかった。
あのとき医師の意見を無視してでも耳鼻咽喉科に通っていれば早期に甲状腺がんを発見できていたかもしれない。
悶々としているうちに広島大学病院の予約日である12月24日、クリスマス・イブの日がやってきました。

（続く）

松本博之　プロフィール

1968年、兵庫県神戸市生まれ。52歳。現在、広島県在住。
団体職員。身長182㎝　体重　81kg　（入院前は94kg）
甲状腺がんになるまで、病気らしい病気はしたことがない。
性格的には、気にするタイプでストレスは溜まるが、
仕事では責任感があると言われる。家族は、妻と小学生の息子。
趣味は野球観戦（阪神タイガース）、旅行。好物はカレー、パン、ラーメン。